日本共産党躍進の新時代へ

岐阜市から本格的な流れを!!

30余年ぶりの国会議席必ず

大須賀しずか

現県議

県議のバトン必ず引き継ぐ

中川ゆう子

現岐阜市議

両氏が決意

5.13 記者会見

日本共産党岐阜県委員会の松岡清県委員長は13日、県庁で記者会見し、来たるべき衆院選の岐阜1区に、大須賀しずか・現県議を、また後継の県議候補には中川ゆう子・現岐阜市議をそれぞれ擁立すると発表しました。大須賀、中川両氏が同席し、それぞれ必勝への決意を述べました。

会見する大須賀1区候補（右）と中川県議候補

力合わせて 新たな躍進へ

会見を終えて、ガッチリ握手する大須賀県議・衆院岐阜1区候補と中川ゆう子岐阜市議・県議候補。安倍暴走政権と唯一対決する日本共産党の旗を高くかかげ、暮らしと平和のために女性コンビでガンバロウと決意を新たにしあいました。

岐阜市でも同時刻に

同時刻、岐阜市役所では党岐阜地区委員会が記者会見。来春の岐阜市議選候補者第一次分として、堀田信夫、井深正美、原菜穂子の現職3氏を発表。中川市議の後継新人を急ぎ決め、現有4議席を必ず確保すると決意を述べました。

松岡県委員長の記者会見コメント（要旨）

年初の第26回党大会を受けて私たちは、2010年代に全地区で県議を持ち衆院1区、5区で議席を争える党に成長・発展するという目標を決めました。

国政選挙では、昨年の参院選でわが党が70年代、90年代に続く「第3の躍進」をかちとったことで「自共対決」の様相が明確となりました。安倍政権の目に余る暴走と唯一対決する日本共産党が、比例選挙だけでなく小選挙区でも議席を争う党に前進することが、いまの情勢から求められています。そのためには2016年任期満了の次回衆院選が大事です。ここで2～3割の得票率を獲得できれば間違いなく議席を争うところへ行ける。そういうたたかいができる候補者は、県議として実績抜群の大須賀さんしかないとして相談したところ、ご本人からも国政を変えるために頑張る決意を寄せてもらうことができました。

その後継の県議候補には現岐阜市議の中川ゆう子さんを擁立します。市議2期目で党市議団幹事長を立派に努める33歳のバイタリティ溢れる働き手であり、県議会唯一の野党・県民の命綱の1議席を引継ぎ十分働ける人だと確信します。

岐阜市での県議2議席への展望を開く選挙にするように全力をつくします。